

研究推進計画

1、研究主題

『思いやりの心を持ち、自分の考えを進んで表現できる児童の育成』

2、主題設定の理由

本校は、全校児童5名、学級数2（普通学級1、特別支援学級1）の複式極小規模校である。この4年間新入生がなく年々児童数が減少しているが、子どもたちは元気に学校生活を過ごしている。休み時間には一緒になって遊び、縦割り班で行う清掃活動でも協力し、お互いをよく知り仲の良い子どもたちである。しかし、慣れや甘えから自己中心的な言動があったり、友達の困り感に思いが至らなかつたり、自分の思いをきちんと表現できにくかつたりすることがある。また、全体や改まった場では、声が小さくなつたり消極的になつてしまつたりする弱さも感じられる。中学校で大規模集団に入る本校児童には、確かな学力とともに人との関わりやコミュニケーションが取れる力を付けて送り出すことが求められている。

昨年は、主に算数科を通して授業改善に取り組み、学習形態の工夫と言語活動を取り入れた授業研究を行ってきた。そして、友達と関わり合いながら、自分の思いや考えを進んで表現しようとする力を育てることを大切に、全員参加を保障する授業のあり方を模索してきた。また、思いやりの心を育てるため、学級指導や児童会活動の中で、認め合い、支え合える集団づくりを進めてきた。それらの取り組みにより徐々にではあるが、授業形態での学習規律の定着や、「読む力」や「話す力」の向上、児童の自己肯定感の高まりなどが見られるようになった。また、家庭と連携しながら自主学習の充実を図ることで、家庭学習での児童の意欲も感じられるようになってきつつある。

そこで、本年度も引き続き『思いやりの心を持ち、自分の考えを進んで表現できる児童の育成』を研究主題として設定した。これまでの取り組みの成果と課題を踏まえながら、本年度は複式授業での新しい取り組みとしてICT機器を日常的に活用し、既存の指導案を基に授業を練り直すことなどを通して教師の授業力を高めていくことと、少人数の中でいかにして児童の豊かな表現力を育成するのか、言語活動の充実に努めながら、どう基礎・基本の学力を定着させるかが重要な研究テーマである。また、友達同士の相互理解や思いやり、集団としての高まりも、心の教育を行う上で最も大切にしなければならない。さらに、児童の健やかな成長と確かな学力の育成のためには、基本的な生活習慣の確立も不可欠であり、保護者の理解と協力を求めていくことも学校として重視すべきである。これらの本校の教育課題に沿った校内研修を引き続き深めていきたい。

3、研究の柱と研究内容

研究の柱	研究内容
①授業改善	<ul style="list-style-type: none">・ICT機器を活用した授業づくり（主に算数）・到達度把握検査（CRT）の実施と分析（3回）・研究授業（全学級）各自1回・複式指導法の研究（間接指導のマニュアル作成）・授業評価表の活用（児童による授業評価）・講師招聘による研修内容の深化・充実・単元テストの活用
②基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none">・読書指導（チョモランマ読書 8848ページ）・計算パワーアップタイムの充実・自主学習の奨励・全校「くぼつつ子」活動

③心の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育、道徳教育の充実 ・特別支援教育の充実と児童理解 ・仲間づくりの取り組み（くぼっつ子アンケート・Q-Uの実施と分析） ・地域と連携した取り組み （大敷について、窪津小発表会など）
④生活・学習への意欲を高める指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学級実態報告と検討 ・生活点検の実施と保護者との連携 ・児童が主役になる活動づくり ・児童の自学自習力の育成（間接指導時及び家庭学習の両面での手立て）

4、研究方法

- ・毎月第1、3、4水曜日を校内研修日とする。
- ・研究授業は水曜日2校時に実施し、授業検討会では「研究授業の視点」をもとに協議し研究を深める。
- ・「学級・児童の実態と指導方針」等を報告し合う時間を確保し、全校児童について教職員全員が支援のあり方や課題を共通理解できるようにする。
- ・講師を招聘してICT活用の仕方、複式授業などの学習を深め、教育的力量を高める研修を行う。

5、研究授業の視点

〈授業者を見る視点〉

- ・発問は適切であったか。（明確さ、考える時間の確保、声の大きさ）
- ・全体及び個別の支援や評価は適切であったか。（意欲を引き出す、考えを引き出す、生活に結びつけたり既習内容と関わらせる、発言を絡ませる、仲間と関わり合わせる）
- ・板書の仕方や掲示物・教具の提示や活用は効果的であったか。（思考を深める手助け、課題の構造化や焦点化、引きつける工夫）
- ・複式授業での「わたり」は、児童の学習状況に応じて、場面や回数及び間接指導学年児童への支持が適切であったか。
- ・ICT機器はスムーズに操作できていたか。
- ・授業の中でICT機器の効果的な活用ができていたか。

〈児童を見る視点〉

- ・全員参加の学習となっていたか。
- ・基礎的な学習規律が身についていたか。
- ・仲間と関わり合っていたか。
- ・粘り強く深く思考できていたか。
- ・自分の考えを様々な方法で伝えよう・表現しようとしていたか。
- ・表現力は向上してきているか。

〈その他〉

- ・本時のねらいや展開は、研究主題に沿って、また、児童の実態や発達段階に応じて適切であったか。
- ・本時のねらいは達成できたか。